

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
自他を大切に、社会に貢献できる生徒の育成	1 生徒が「小城中に行きよかった(充実した学校生活・進路保障・卒業式への全員参加)」、保護者が「小城中にやってくよかった(高校卒業・就職)」、教職員が「小城中に勤めてよかった(サービスの規律保持・健康増進・資質向上)」と感じる教育活動を組織的に実践する。 2 教科をこえたテーマで校内研を充実させ、学ぶことが楽しくなる授業づくり、学級経営を実践し、学力向上を目指す。 3 人権・同和教育をさらに充実させ、自他を尊重し、郷土に誇りを持ち、社会に貢献する心を育成する。

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
①学ぶことが楽しくなる授業づくりを実践し、学力向上を目指す						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●学力の向上	・本校生徒の実態を踏まえた指導方法の確立による学力向上	・調査において「授業がわかる」という生徒を80%以上にする。 ・4月及び12月の学習状況調査において経年比較をし、前年度の結果を上回る。	・黙想-立腰-礼から始まる規律ある授業づくりを行う。 ・本時のめあてと授業の流れの明確化により見通しを持った授業を展開し、授業の振り返りによって学びの定着を図る。 ・授業に応じた主体的学びの場を設定する。	学習部	伊東
		・きめ細かな指導による学力向上	・1年生において平日の家庭学習2時間以上の生徒を60%以上にする。 ・12月調査及び実力テストにおいて、TTおよび少人数授業実施の学年・教科の成績を経年比較し、前年度より向上させる。	・1年生において小規模学級を編制し、基本的学習習慣を確立させる。 ・単元や内容の特性を生かしてTT及び少人数授業をそれぞれ実践する。 ・課題提示の工夫を行うとともに、育友会と連携して家庭学習の習慣化を図る。	学習部	伊東
②自他を尊重し、郷土を愛し、社会に貢献する心を育成する						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	・人権・同和教育の充実	・教科担任と学級担任が連携して差別や人権に関する授業を年間に2回以上は行う。 ・各教職員が1回以上は研修会に参加する。	・社会科で差別や人権に関する内容の授業がある場合は事前に学年で検討会を設け、教科担任と学級担任が連携した計画的な授業を行う。 ・教師自身の人権感覚を磨くために校外の研修への参加を推進する。	人権・同和教育	鶴中尾
		・道徳教育の充実	・生徒アンケートで、道徳の授業内容が充実している割合を70%以上にする。	・道徳の授業の時間確保と教材の共有化を図る。 ・「わたしたち道徳」をはじめ読み物資料や視聴覚教材などを利用して、計画的に道徳の授業の実践を行う。	道徳教育	大坪大庭
		・郷土愛の育成と地域貢献の推進	・地域行事への参加生徒を昨年度より20%増やす。	・生徒会活動を中心に家庭・地域と連携してボランティア活動を活性化させる。 ・地域教材を利用した教科や総合的な学習の時間の充実を図る。	生徒会	高取
	●いじめ問題への対応	・いじめの未然防止・早期発見早期対応	・アンケートの充実と教職員と保護者の連携で、いじめを未然に防止する。 ・SNSの正しい利用方法やスマートフォン等使用上の約束事について家庭訪問や土曜授業を活用して全家庭に周知させる。	・道徳や学級活動、全校集会や生徒集会などあらゆる機会を利用して、いじめの未然防止についての啓発を行う。 ・計画的に教育相談やいじめ・体罰アンケートを実施し、結果については関係職員で情報共有を図り、連携して組織的に取り組む。 ・育友会や生徒会と連携してスマホに関する協議を行い、一戸でも多い家庭に周知させる。	生徒指導／教育相談	手塚村山
			・不登校対策の充実	・不登校生徒数を前年度より20%以上下回る。 ・不登校生徒・保護者対象の進路説明会や情報交換会を学期に1回以上開催する。	・教育相談週間の充実を図り、不登校未然防止のために、生徒が相談しやすい体制を構築する。 ・SC、SSW、市家庭教育相談員、児童相談所など関係者による情報交換会を定期的に開催し、具体的手立てを検討する。	教育相談
	○教育相談・生徒支援体制	・特別支援教育の充実	・通常学級の中にある配慮や支援を必要とする生徒への支援をする。 ・特別支援学級担任の連絡会を毎週1回以上は開催する。 ・交流学級担任と特別支援学級担任が月に1回以上は授業を相互参観する。	・通常学級の中にある配慮や支援を必要とする生徒の状況把握と生徒との面談などを行いサポート体制を整える。 ・特別支援教育に関する職員研修会を開催する。 ・定期的に事例研究会を実施し、指導・支援に関する共通理解を図る。 ・外部機関(SC・特別支援学校・病院・市適応指導教室など)との連携を推進する。	特別支援教育	古賀野中
③教職員の健康増進、資質・能力の向上を図る						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・メンタルヘルス不調の予防	・職員アンケートで、多忙を感じた割合を30%以内にする。 ・時間外勤務月80時間を超える職員を30%以内にする。	・第3日曜日の部活動は例外なく休養日とする。 ・月曜日の部活動は原則休養日とし、定時退勤を促す。 ・人間ドックなどの再検査を必ず受診させる。 ・定期テストや始業式・終業式の午後には会議を入れずに年次取得推進日とする。	教頭	渋谷
	○教職員の資質向上	・校内研究の充実 ・研修会や研究会への参加推進	・道徳の授業が好き、自分の考えを深めることができた生徒を70%以上にする。 ・全職員が1回以上は教育センター講座や県・九州研究大会に参加する。	・校内研において講師招聘や授業研究会を行うとともに、全職員が3回以上の相互授業参観を実施する。 ・教科部会の時間を確保し、教科で共通した取組を推進する。	校内研究推進／学習	大庭伊東
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	・基礎体力の向上 ・食育の推進	・新体力テストで県平均を5種目以上上回る。 ・朝食の喫食率を85%以上とする。	・授業における補強運動を徹底させ体力の向上を図る。 ・放送・給食指導・便り・食育授業を通して、朝食の大切さについて理解させる。 ・外部関係機関や育友会と連携して、朝食に関する取組を実施する。	保健・健康／食育	鹿江森川

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目